

# 親から子へ、子から孫へ 受け継がれる伝統と思い

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かして、新しいモノづくりの挑戦に挑む「匠」を応援する。



エリア・コンサルティングにて

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーに発足。昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を

## レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



1月17日、プレゼンテーションにて

「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。

秋田県選出の匠、大館曲げわっぱ伝統工芸士の柴田昌正さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

### 大館曲げわっぱを世界に広めたい

柴田さんの工房は、大館市のJR大館駅近くにある。先代である父が「柴田慶信商店」を開いたのが29年前。伝統的工芸品である「大館曲げわっぱ」の発展のため、身を粉にして尽くしてきた。

大館曲げわっぱは秋田杉を使用した曲げ物。江戸時代、大館城代の佐竹西家が豊富な秋田杉を利用するため製作を奨励したと言われる。以来、利便性のほか秋田杉の吸湿性や殺菌効果も注目され、テーブルウェアとして人々の生活を支えてきた。現在も、弁当箱として全国的な人気を誇っている。

その一方で、担い手不足が懸念されている。一時20社以上あった職人の会社は現在半分以下の7社まで落ち込んでいる。柴田さん自身も、大学卒業後2年間の会社勤めを経験した。しかし、「父の仕事ぶりを子どもの頃から見てきたので、同じ道を歩むことに迷いはありませんでした」と語る。



柴田慶信商店の外観

先人達が脈々と伝承してきた技術、技法を後世に伝え残したいという思いは人一倍。曲げわっぱ人気に伴い、使い勝手を良くしようとウレタン塗装を施した製品も出回ってきた。しかし柴田さんは秋田



制作はすべて手作業で行われる

杉の特性を生かすため、あえて無塗装にした。 「あくまで主役は中身。その魅力を引き立てられる入れ物となって、使う方が喜んでくれるのは嬉しいです」

伝統的な技術を大事にしながら、自分ならではの個性や現代のライフスタイルに合わせた商品開発も試みている。そんな姿勢が評価され、制作したパン皿やバターケース、タンブラーといった商品はグッドデザイン賞を受賞した。

代表取締役就任した平成22年には、東京浅草に店舗を設けた。大きな賭けだったが、大館曲げわっぱの知名度を上げるために挑戦を選んだ。今では、東京を旅行する観光客たちが土産を求めて訪れるという。親しみを覚えているという。定期的なワークショップも開く。参加者に自ら曲げ物の良さを伝える。

「伝統的なテーブルウェアだけでなく、家具など新しいことに積極的に取り組んでいきたい。大館曲げわっぱが、日本のみならず海外で当たり前に使われるような日があることが夢です」



豊かな自然が広がる大館市



真剣な表情で作業する柴田さん

## 秋田の人が喜んでくれる商品を、秋田県の素材で

柴田昌正 秋田/大館曲げわっぱ伝統工芸士



完成プロダクト「iwai」

曲げわっぱは日本酒の四合瓶やワインボトルが入る大きさ。そのままクーラーとしても使用できる。中にはサイズ違いの曲げわっぱのお猪口が3個入っている。白木に映えるカバーをつければ、屋外での祝いの席にぴったりな商品となった。

### 各匠とのつながりが励みに

「いつも作品に向き合う時は一人。しかし、今回様々な技術や知識を持った方々にアドバイスをいただき、自分では考えつかなかったような新しい商品を作ることができました。」

プレゼンテーションではサポートメンバーのケエナエル・ニコラ氏選出の「注目の匠」となった柴田さん。感想を聞くと、「出てきたのは他の50名の匠への感謝の言葉だった。」「制作がうまく進まなくても、こんなに仲間がいると思うと頑張ることができました。この商品を作り出させてくれたプロジェクトと、匠の皆さんに感謝しています。」



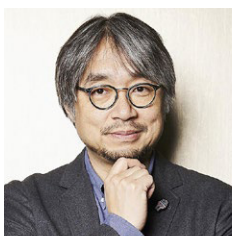
カバーをつけて持ち歩くことができる



商談会で説明する柴田さん

## 広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまもん」の生みの親でもある。



柴田 昌正  
秋田/大館曲げわっぱ伝統工芸士

1973年秋田県大館市生まれ。1996年大学卒業後、2年間の会社勤めを経て秋田へ戻り、父・慶信氏に弟子入り、曲げ物の道に入る。2009年日本橋三越本店に常設店オープン。2010年柴田慶信商店、代表取締役就任。浅草店オープン。同年、伝統工芸士に認定される。全国伝統的工芸品公募展 日本伝統工芸士会長賞、日本クラフト展入選、くらしの工芸展2006審査員奨励賞を受賞。

LEXUS  
NEW  
TAKUMI  
PROJECT